

UNNキャンパス原稿書式

会津坂下町での地域づくり活動について

NPO法人うつくしまNPOネットワーク

副理事長 鈴木伸司

▼会津坂下(あいづばんげ)町では、町の第四次振興計画素案づくりのため、「協働のまちづくり」を掲げ、一般公募により集った町民、約40名と行政職員10名が参加し、50名で「まちづくり2001委員会」を構成し、町の将来像を描きながら、現状把握から施策の素案作成まで、ワークショップを中心とした協議を重ね、会津坂下町をグランドデザインした。

▼振興計画の施行にあわせ、計画の具現化のため「会津坂下町まちづくり委員会」が設立された。町民40名(行政の職員も一町民として参加)が参画し、まちづくり2001委員会の部会編成に準じた6つの部会に分かれ、2001委員会で策定された行動計画に沿って事業を企画、運営、実施した。

また、2002年10月、公設民営型の施設を町民が運営・育成していく、集う・助ける・つなぐ場として「会津坂下町まちづくりセンター」を開所した。同時に、町民、町及び議会が、協働して取り組むまちづくりのための原則と仕組みづくりの方針を明確にするため「会津坂下町まちづくり基本条例」を制定。議会の承認を経て2003年4月1日より施行された。

▼2003年年2月、会津坂下町まちづくり委員会の中から、特に誇りと熱意を持ったメンバーが集い「市民活動支援組織NIVO(ニボ)」を設立し、8月にNPO法人化した。会津坂下町まちづくりセンターの運営受託、2004年度から公設民営形式に移行した地域の公民館職員の配置などを介し、住民の視点によるまちづくりの醸成・推進のため、地域における民間中間支援組織としてサポート活動などを実施した。(2020年11月に解散した。)

▼2011年3月の東日本大震災時には、葛尾村が会津坂下町に避難して来たのにあわせ、町・社協と協議し、中間支援組織の強みと横のつながりを活かし、いち早くボランティアセンターを設置し民間の立場で支援活動を展開した。

▼第18回公益信託うつくしま基金の助成を受け、まちづくりの勉強会を開催したことをきっかけに、住民有志で仲間を募り、話し合い、学びの場を提供しながら自らも教養を高め、交流や活動の場づくりを目指し、地域が良くなれば結果的に、生業や生計に良い影響をもたらすと期待し、SDGsの観点・考え方をもちながら、ゆっくり、のんびり、無理をしないをモットーに、2020年5月16日に「SPPOG」を設立した。活動の拠点として「ばんげ市民活動サポートセンター」を設置し、勉強会や子育て支援活動等の事業を実施している。SPPOGとは、Study・Project・Pro Bono・Operation・Groupの頭文字をとったもので「スポッグ」と読む。

(2023年11月13日記)